

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州の伝統野菜「ていざなす」苗作りセンターつくるぞ~!!!
事業主体 (連絡先)	天龍村ていざなす生産者組合
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ハード
総事業費	1,612,941 円

事業内容

連作障害や病気に強い接木苗を作る育苗施設が老朽化しているので、新たに設置して、今まで以上に安定した接木苗を量産できる体制を図るとともに、ていざなすの普及・拡大の取組活動を行い需要と供給の量を増やし、組合員の増加を目指す。

- 育苗施設(パイプハウス)の整備  
162㎡(幅5.4m\*長さ30m)×2棟 面積計324㎡
- ていざなす普及・拡大の取組み
  - 栽培講習会(7月10日)、収穫体験会(10月27日)
  - 新規組合員の勧誘と栽培指導
  - 天龍村ふるさと夏まつりでの活動(8月15日)
  - 天龍保育所や天龍小学校への食材提供
  - 福島県伊達市「だてな太鼓まつり」参加(8月17日~20日)



【育苗施設設置】

【目標・ねらい】

- ①接木苗の安定量産
- ②ていざなすの普及・拡大
- ③ていざなすの販路拡大

事業効果

- ①育苗生産量の増  
育苗施設のパイプハウスを設置することにより、育苗面積が増えて、接木苗の育苗本数を増やすことが可能となった。
- ②ていざなす普及・拡大の取組み  
村内の保育所、学校の給食でていざなすを使うことにより子供たちがていざなすに興味を持ってくれるようになった。その他にも収穫体験、村の夏まつりへの参加等により組合の取組み活動がPRできた。  
また、販路拡大として、商談等の活動をしてきた結果、今年度から豊洲の仲卸業者との取引が増えた。

※自己評価【B】

【理由】  
ていざなすの接木苗を安定的に量産できる体制ができた。また、少しずつではあるものの、普及・拡大の取組により、新たな販路ができつつある。

今後の取組み

本事業で設置した育苗施設のパイプハウスを有効利用して、ていざなす接木苗の量産を図るとともに、苗栽培のシーズン以外は竹パウダー作りに使用して、ていざなす栽培の土づくりに使用していく。  
また、ていざなす組合の取組として、引き続き普及・拡大の取組を行い販路を広げるとともに、生産者の増員、栽培面積の拡大をして、地域の活性化を図る。